

10/3 サムエル記第一 3 章 1-18 節「主よ、お話してください」

小池 宏明 牧師

サムエルは、士師時代、最後のさばきつかさ（士師）であり、イスラエルの歴史上、最初の預言者と呼ばれる。彼は、主なる神様から御ことばを預かり、忠実にお伝えし、王様を立てて、イスラエルを導き、時には警告を与えながら生涯を全うした。

* 預言者として仕える訓練と私たち

少年サムエルは、主なる神様の御声を聴き取り違わず伝える者へと変えられる。3 章 1 節「さて、少年サムエルはエリのもとで主に仕えていた。そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。」

士師記の霊的に暗い状況の中で、主なる神様の最初の呼びかけに、祭司エリもサムエルも気づけなかった。主が直接呼びかけることは、珍しい出来事だったからだ。しかし、ようやく 8 節「主は三度目にサムエルを呼ばれた。彼は起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは、主が少年を呼んでおられるということを悟った。」こうして、エリは、サムエルに、9 節のように指導した。「それで、エリはサムエルに言った。「行って、寝なさい。主がおまえを呼ばれたら、『主よ、お話してください。しもべは聞いております』と言いなさい。」サムエルは行って、自分のところで寝た。」少年サムエルが聴いた主のことばは、恐ろしい内容で、彼はエリに伝えることを恐れた。しかし 17 節「エリは言った。「主がおまえに語られたことばは、何だったのか。私に隠さないでくれ。もし、主がおまえに語られたことばの一つでも私に隠すなら、神がおまえを幾重にも罰せられるように。」」サムエルは隠しておくことができなかった。18 節「サムエルは、すべてのことをエリに知らせて、何も隠さなかった。エリは言った。「その方は主だ。主が御目にかなうことをなさるように。」」

ここで、サムエルが、預言者として主なる神様にお仕えするために大切なことを学んだ。それは、主のことばが預けられたのなら、それに、足したり、引いたりすることなく、語りにくいさばきや滅びの預言であっても、はっきり伝えなければならない、と言うことだ。これが預言者の使命である。

最後に、私たちも、サムエルを見倣いたい。聖書を読む時、祈る時「主よ、お話してください。」と心から謙って主の御声を聴く、静まって主の細き声に心の耳を澄ます、そういう姿勢を身に着けたい。毎週の礼拝で語られる御ことばに聴くと共に、ぜひとも聖書通読に励み、御ことばを聞き、御ことばを学び、御ことばに従って生きる生活を目指そう。